

これ程の標本を作成した人は、故人では牧野富太郎博士と氏だけといわれている。その中には鮮苔類・地衣類の標本も多く含まれ、特に地衣類中甲斐駒ヶ岳産のイワタケモドキには氏の名を記念した学名 (*Umbilicaria Koidzumii* Yasuda) がつけられている。甲斐駒ヶ岳には、長野県在任中だけで大正10・11・13年と3回の調査を行っている。

以上の外、氏が長野県内で発見や命名した植物には、次のようなものがある。

チシマヒカゲノカズラ この植物は樺太・千島・カムチャッカ・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカなどに分布するというが、日本国内では北海道と本州中部の高山にまれに産する。本州ではじめて分布を確認したのは、1923年仙丈岳での氏の調査である。

チシマツメクサ この植物は千島・樺太から北半球全般に分布するというが、日本では北海道と本州中部の高山にまれに分布し、本州では1921年氏が白馬岳で最初に分布を確認している。

ツクシコゴメグサ この植物は本州南部と九州に分布するというが、氏が下伊那郡根羽村で分布を確認し、これがこの植物の分布の北限とされている。

ミサヤマチャヒキ 諏訪で発見した氏の名を記念して本田正次氏が1926年 *Avena hideoi* Honda と命名したが、後大井次三郎氏が *Helictotrichon hideoi* Ohwi と改めた。長野県の特産である。

センジョウスゲ 1922年氏が仙丈岳で採集、大井氏によって1930年 *Carex hidewoi* Ohwi と命名されたが、後の研究によってこの植物はインド・中国西部・シベリア南部・朝鮮北部に分布する *Carex lehmannii* Drejer とわかり、それが仙丈岳に隔離分布しているものであることがわかった。

ヤツガタケタンポポ 1917年氏の兄小泉源一氏がハケ岳で採集した標本によって *Taraxacum yatsugatakense* H. Koidz. と命名した。

ウスギタンポポ 1923年長谷川五作氏が発見し、小泉氏が *Taraxacum shinanense* H. Koidz. と

命名した。初め長野市付近の分布と考えられたが、現在は本州中部の外、関東・奥羽地方の一部にも分布していることが知られている。

シロウマタンポポ 白馬岳産のタンポポで1933年に *Taraxacum shiroumense* H. Koidz. と発表されたが、その後の研究で、これはミヤマタンポポの変種とされている。

なお、ミヤマタンポポ (*T. alpicola* Kitam.) には小泉氏が1933年発表したヘラバタンポポ (*T. Ku-rohimense* H. Koidz.) も1934年発表のトガクシタンポポ (*T. togakushense* H. Koidz.) も合一されているが、最近の清水建美・岡崎純子両氏の研究によると、ミヤマタンポポとトガクシタンポポとはちがった分類群を構成するものと結論したい (本誌No15, P. 6 参照) としている。

また、長野県内産ではないが氏の命名したタンポポ属の植物には、次のようなものがある。

タカネタンポポ (一名ユウバリタンポポ) *Taraxacum yuparense* H. Koidz. この植物は北海道の石狩・日高地方の高山帯に分布する。

ツクシタンポポ *Taraxacum kiushianum* H. Koidz. この植物は四国・九州北部に分布する。

このようにタンポポ属の植物の命名があるので、大井次三郎著日本植物誌の日本植物命名者表には、次のように記載されている。

H. Koidzumi : H. Koidz. : Hideo Koidzumi, 1886 - 1945, Japan (*Taraxacum*) 小泉秀雄。

この生年1886は、氏の自筆の履歴書によれば、明治18年であるから1885が正しい。

参考文献

長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第1～4巻
根本莞爾編 日本植物総覧補遺
大井次三郎著 日本植物誌
清水敏一著 大雪山わが山小泉秀雄
長野県植物研究会誌 第11号 第15号
丸山利雄著 信濃の植物・秋津の生物

〔植物ニュース〕69. ミズハコベ *Callitriche verna* L.

信大教養部地理学担当の吉田隆彦氏が、1983年3月22日に、松本市開智2丁目の松電ストアー開智店裏の排水溝で、水生植物を採集され、筆者に同定を求められた。これは、アワゴケ科のミズハコベであった。筆者も3月31日、その地域の排水溝を調べて歩いたら、かなり広範囲に分布していることが判った。ただし、夏になると、環境衛生上毎週この附近

の排水溝を清掃するというので、当分目につかなくなるであろう。日本のミズハコベは *C. verna* L. に当てゝいるが、*Flora Europaea* 3 (1972) によると、この学名は *C. palustris* L. のシノニムになっていて、かなり変異に営むことが記述されている。外形の似ているミズハコベでは葉脈が羽状に配置しているのに、このミズハコベでは、中肋が葉身基部の少し上で3つに分かれ、両側の支脈が中肋とほぼ平行に走るので、容易に区別できる。(豊国秀夫)